

# さいたま市教組新聞

編集・発行/  
さいたま市  
教職員組合  
〒330-0843  
さいたま市大宮区  
吉敷町4-93-5  
大宮教育会館2F  
TEL 641-6763  
FAX 648-3567  
2017.9.22(金)  
No. 232

## こどもたちによりよい教科書を

### 市教委は教科書採択に現場教師の意見を尊重せよ

## 来年度道徳教科書に教育出版が採択される

夏休み中の八月十日に、教育研究所に於いて、来年度から使用される小学校道徳教科書の採択を決定する教育委員会が開かれました。

そもそも、道徳教科書採択にあたっては、学期末の大変忙しい時期にもかかわらず、私たち市内小学校のほとんどの教師が教科書展不参に出張し、さいたま市の道徳教育にふさわしい教科書としてさまざまな観点で学校ごとの調査研究の意見を出しました。

その結果は会議でも報告されたように、圧倒的に「学研みらい」の教科書であり、それに続く教科書として、東京書籍、教育出版、光村図書でした。(別表参照)

これを受けた、現場教師の代表である「教科書選定委員会」の推薦も「東京書籍」「光村図書」「学研みらい」の三社でした。この時点でも「教育出版」の採択は到底考えられるものではありませんでした。

しかしながら、約二時間の討論の後、六人の教育委員の投票により「光村図書」と「教育出版」の教科書が三票対三票の同数で選ばれ、規定により教育長の判断で「教育出版」の教科書が採択されました。

従来の選定会議では学校票や選定委員会の推薦が大いに尊重されてきた経緯があります。多くの現場教師や専門家の意見に反してまで以下に記載

するような問題点がある教科書を採択する理由がどこにあるのでしょうか。また、採決にあたって

も従来は出席委員の挙手による採決方法だったものが、今回は無記名方式の投票でした。これも採択の責任を回避した、透明性を損なう方式であると言えます。

今回採択された教育出版の教科書は、教育の政治的中立を損なう恐れのある写真が使用されたり、執筆者に国家主義的な団体に所属する者がいたり教職員のみなならず多くの市民からも疑問の声があがっています。

さいたま市議会の教育長答弁では、今回の採択にあたって「教科書採択は教育委員会の権限」

「学校、選定委員の意見を参考にして決めた」とのことですが、十分な説明はなされていません。道徳が教科化され、し

かも来年度から「教科書」を使用すること自体現場教師に迷いがある中、この教科書採択は子どもたちの実態、父母、地域の要求を一番知る私たち現場教師の希望は採択に大きく反映されるべきです。

さいたま市教組は今回の採択結果に対して強く抗議するとともに、白紙撤回のうえ採択のやり直しを求めるものです。

(裏面に抗議書掲載)



発行社	東京書籍	学校図書	教育出版	光村図書	日本文教	光文書院	学研	廣済堂
学校調査研究(104校)	32	12	24	23	16	17	77	5
選定委員会	○			○			○	
教育委員会			3	3				
教育長裁定			○					

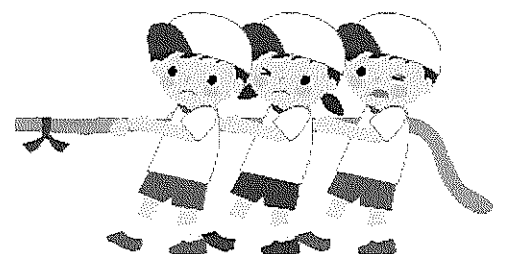
### 2017年度

## 第16回さいたま市教育研究集会

日時 10月14日(土) 9:20~12:00  
場所 与野本町コミュニティーセンター

分科会

- 「さいたま市の教育、子育て」
- 「その子に合った成長、教育を考える」
- 「教科の指導(国語、社会)」



どなたでも参加できます。  
市民、父母、学生、教職員のみなさんでおおいに語り合しましょう。

# 性急過ぎるGSの時間増

## 実施は

### モデル校の研究を検証し

#### 一年の猶予も検討せよ

夏休み中に行われた「教育課程説明会」は、まだ休みが始まったばかりの数日後にもかかわらず、レポートを提出し、しかも一日がかりの大変負担の大きい出張になっています。

「教育課程説明会」は、まだ休みが始まったばかりの数日後にもかかわらず、疑問の声が出されています。

「知識について評価しているのか？」「ALTIや非常勤講師との打ち合わせ時間の確保はできるのか？」「教材研究にかかる学級担任の負担が増えるのではないか？」

（ちなみに他市の県教委主催の説明会はレポートなしの半日の日程です。私たちは、これまでも負担軽減を市教委に求めてきました）

肝心の新指導要領の説明はラインを引くだけで質問時間も設定されていませんでした。

「知識」も評価され、知表に反映されることから、多くの子どもたち

そんな中で、小学校グローバルスタディ（GS）部会では多くの質問が出される事態となりました。過日市教組新聞でもお伝えしたように、来年度に実

施が予定されている一時間増のGSの実施は、現場から多くの不満と疑問の声が出されています。

「知識」も評価され、知表に反映されることから、多くの子どもたち

ちが英語教室に通うようになった現実についても問題が指摘されています。

文科省の新指導要領における外国語教育の提案では平成三十二年（2020年）から「五・六年生は週二時間、三・四年生は週一時間」とされており、仮に移行期間の実施であつては「総合」との時間調整で、子どもたちや学校の教育活動に負担がないように進められます。

朝の大切な浮動をカットし、バランスの取れた教育活動が保障されないままの実施は、性急すぎます。

まずは、モデル校の研究内容を様々な立場で検証し望ましい外国語教育の在り方を考えるべきです。

さいたま市教組は、GSの実施にあたっては最低でも一年間の猶予を持たせ、望ましい教育内容を考えるべきと訴えます。



2017年9月20日

さいたま市教育委員会  
教育長 細田 眞由美様

## 抗議書

過日、8月10日、さいたま市教育委員会会議において、さいたま市内小学校で来春より使われる道徳教科書として、「教育出版」の教科書を採択されたことはたいへん遺憾であり、強く抗議します。

そもそも、道徳教科書採択にあたっては、学期末の大変忙しい時期にもかかわらず、私たち市内小学校のほとんどの教師が教科書展示会に出張し、さいたま市の道徳教育にふさわしい教科書としてさまざまな観点で学校ごとの調査研究の意見を出しました。その結果は会議でも報告されたように、圧倒的に「学研みらい」の教科書（77票）であり、それに続く教科書として、東京書籍（32票）、教育出版（24票）、光村図書（23票）でした。これを受けた、現場教師の代表である「教科書選定委員会」の推薦も「東京書籍」「光村図書」「学研みらい」の3社でありました。この時点でも「教育出版」の採択は到底考えられるものではありません。

さらに、今回採択された教育出版の教科書は、教育の政治的中立を損なう恐れのある写真が使用されたり、執筆者に国家主義的な団体に所属する者がいたり教職員のみならず多くの市民からも疑問の声があがっています。

従来選定会議では、学校票や選定委員会の推薦が大いに尊重されてきた経緯があります。多くの現場教師や専門家の意見に反してまで、現場教師には望まれていない教科書を採択する理由がどこにあるのでしょうか。

また、採決にあたっては従来は出席委員の挙手による透明性のある採決方法だったものが、今回は無記名方式の投票でした。これも採択の責任を回避した、透明性を損なう方式であると言えます。

さいたま市教組は今回の採択結果に対して強く抗議するとともに、白紙撤回のうえ採択のやり直しを求めるものです。

さいたま市教職員組合 執行委員長 大澤 博